

石巻市立青葉中学校

I 学校所在地域の災害特性および地域連携に係る現状等

- 1 2011年東日本大震災：学区の4地区のうち、海に近い2地区は津波が押し寄せ被害程度が重く、他2地区はほとんど被害がなかった。学校は浸水せず、建物に被害はなかった。大震災当日から10月中旬まで避難所となり、最大約4,500名が宿泊した。当日は、午前中卒業式が終わり全員下校していた。津波による死亡生徒は12名である。
- 2 想定すべきハザード（近年の経験及び石巻市ハザードマップ等より）

学区の地震における木造建物全壊率の危険度は1となっている。液状化の危険性はない。

 - (1) 学区の土砂災害の危険性はない。中学校は、洪水時・津波時、浸水の被害想定はない。ただ、学区で国道45号線の海側は0.5m～1mの浸水の被害が想定されている。
 - (2) 強い雨が降ると学区内に一部冠水する場所が見られる。

女川原力発電所からの距離が30km圏内のUPZ内に立地している。
- 3 本校が指定されている避難所等
 - (1) 津波・高潮・洪水・内水氾濫・土砂災害の緊急避難場所に指定されている。
 - (2) 災害の危険がなくなるまで一定期間滞在し、または災害により自宅へ戻れなくなった方が一時的に滞在する指定避難所となっている。
 - (3) 地域防災連絡協議会

釜小学校と合同で設置。学校関係者（含む生徒）、町内会、消防団、石巻市危機対策課等を構成員とし年間3回連絡会を実施。

II 取組状況

- 1 地域や関係機関等と連携した学校防災マニュアルの見直し及び避難訓練の実施
 - (1) 地域と連携した学校防災マニュアルの見直し

本校で年間3回実施している「青葉中学校・釜小学校区地域防災連絡協議会」の中で、青葉中学校区4地区の町内会役員に、学校防災マニュアルを配布し、内容について意見をいただいた。マニュアルの分量が多いため、地域と関連のある部分に絞って学校と地域でマニュアルの共有、意見交換を行った。



(2) 地域や関係機関と連携した避難訓練の実施

10月に実施した避難訓練において、石巻消防署員の指導の下、火災避難訓練を実施した。また、CS委員、PTA役員、石巻市教育委員会学校安全推進課職員などに避難訓練を参観していただき、訓練の様子について意見をもらった。避難訓練の評価については、宮城教育大学林田由那先生のご協力をいただき「PDCAサイクルを生かした避難訓練チェックリスト」を活用した。チェックリストを活用することで、視点を明確にして評価していただき、今後の避難訓練の実施に有意義な助言をいただけた。



2 地域と連携した災害特性を共有するワークショップ等の実施

(1) 地域防災連絡協議会における市防災担当部局（石巻市危機対策課）との情報交換

7月に実施した地域防災連絡協議会で、出席していただいた石巻市危機対策課職員と地域町内会役員の方々での情報交換を行った。地域の防災に取り組んでいる役員の方々からの要望や疑問点に市の職員の方に丁寧に回答していただいた。地域防災連絡協議会が行政と地域が直接情報交換を行える貴重な機会となっている。



3 教職員の災害対応力を養成する校内研修等の実施

(1) 災害対応力を養成する研修の実施（CRM研修）

学校防災アドバイザーとして協力をいただいている東北大学佐藤健先生、宮城教育大学林田由那先生を講師に招き、災害時等にチームで問題を解決するための行動について学ぶCRM（クルー・リソース・マネージメント）研修会を実施した。チームで対応する基本的な考え方について講話をいただいたあと、ワークショップ形式で学年ごとにチームを組み課題に取り組んだ。



(2) 職員研修での震災遺構訪問

亙理町の震災遺構中浜小学校を訪問し、職員研修を実施した。県内他地区の被災地を訪問することで、震災被害に対する職員の視野を広げる機会となった。また、震災当時の中浜小学校の校長先生に語り部ガイドとしてお話をいただき、改めて災害時の判断の大切さ、教職員の責任の重さについて学ぶ機会となった。初任層や他地区出身の教員にとっても、震災について学ぶ有意義な研修となった。



4 被災地訪問等を取り入れた児童生徒の防災意識を高める防災教育の実施

(1) 気仙沼市東日本大震災伝承館の訪問（1学年）

震災当時について学ぶ学習の一環として、気仙沼市東日本大震災伝承館を訪問した。訪問した1学年の生徒は、震災当時の記憶が残っている生徒はほとんどおらず、旧気仙沼向洋高校の校舎見学では被害の大きさに驚きながら見学する姿が見られた。語り部ガイドの方々から当時の様子を聞きながら、自分たちの生活する石巻でも同じような被害があったことに改めて気付くことができた。



(2) 地域人材を活用した防災学習の実施

地域の方々の協力をいただき、各学年で防災学習の時間を設けた。1学年では地域の方を講師に招き震災当時の学区内の被害についてお話をいただいた。また、その後に実施した、学区内の復興・防災マップづくりでも地域の方と一緒に町歩きを行い、震災当時の様子を聞きながらマップづくりを実施した。2学年では、地域の防災士さんを講師に招き、災害時の非常持ち出し品についてワークショップ形式で学んだ。3学年では、石巻市復興政策課の職員の方を講師に招き、震災から10年間の石巻市の復興への取組についてお話をいただいた。また、将来の石巻を魅力ある街にするためのアイデアを話し合うなど、行政の立場から貴重なお話をいただいた。



Ⅲ 取組を通じた成果と課題

1 成果

- (1) 学区が震災で大きな被害を受けた地区ということもあり、地域の方々の防災に対する意識はとても高く、様々な取組に快く協力していただき地域と学校が一体となった防災への取組を推進することができた。
- (2) 震災から10年が経過し、入学して来る生徒たちも震災の記憶がほとんどない中で、地域の方を講師に招いての防災講話は震災時の学区内の様子について知るとてもよい機会となった。
- (3) 震災遺構を訪問しての防災学習や職員研修は、実際に見聞きすることで改めて防災の大切さについて考えることができ、多くの学びがあった。
- (4) 生徒対象のアンケートから
「命を守る意識は高まりましたか」 高まった：70.6% 概ね高まった：28.2%
「地域との協力は大切だと感じましたか」 大切だと感じた：68.9% 概ね感じた：28.2%
よい評価の回答がほぼ100%となった。1年間の防災学習への取組が生徒たちにとって有意義なものであったことが見て取れる結果となった。
- (5) 職員対象アンケートから
「実践を通して防災に対する意識は高まりましたか」 高まった：63.6% 概ね高まった：36.4%
1年間の実践校としての取組を通して教職員の防災に対する意識の高まりが見られた。

2 課題

- (1) 地域住民と連携したワークショップの開催や合同の避難訓練など、予定していた取組がコロナ禍の影響もあって実施できなかった。
- (2) 地域住民との連携をより進めていくとともに、石巻市の防災担当部局との連携をより深め、学校、地域、行政が一体となった防災への取組を進めていく必要がある。
- (3) 生徒対象のアンケートから
「地域の災害について理解できましたか」 理解できた：58.4%
「災害発生時の避難場所について理解できましたか」 理解できた：66.1%
2つの質問項目で、他の項目より数値が低くなった。次年度は自分たちが生活する地域の災害や避難場所について詳しく知るなど、より地域に根差した防災学習を進めていく必要がある。
- (4) 職員対象のアンケートから
「実践を通して生徒の災害対応力は高まりましたか」 高まった：18.2% 概ね高まった：81.8%
「高まった」より「概ね高まった」の回答が多くなっている。今年度の取組を更に発展させ、様々なケースを想定した避難訓練や防災学習の実践を重ねることで、生徒の災害対応力を更に高めていきたい。

Ⅳ 次年度の取り組み予定等

- 1 地域住民と合同での石巻市総合防災訓練への参加
- 2 石巻市震災遺構 門脇小への被災地訪問学習
- 3 地域住民と合同での防災ワークショップの開催